

DEBUT 首長

静岡県富士市長 小長井 義正氏



こながい・よしまさ 1955年静岡県富士市生まれ。79年一橋大学商学部卒、ニチメン（現双日）入社。97年富士市議会補欠選に初当選。2009年富士市議会議長に就任。市議を5期目に辞職し、13年12月の富士市長選に出馬。14年1月に就任。

企業訪問・規制緩和で産業強化 教育改革で学力向上目指す

富士市 富士山の麓に位置し、製紙業をはじめとする製造業が盛ん。かぐや姫でおなじみの「竹取物語」ゆかりの地として知られる。2008年に旧富士川町と合併。人口26万人。

——喫緊の課題に産業政策を挙げている。

企業訪問に力を入れたい。市内の企業を回って意見や悩みなどを直接吸い上げる。市外の企業も積極的に訪問する。新東名・東名高速道路からのアクセスに便利な富士山フロント工業団地にはまだ空き区画があるので、早急に誘致を図りたい。規制緩和もテーマの一つだ。

2014年度に「市長戦略室」を組織し、部署を横断する新規事業は全てここに対応させる。縦割り行政の弊害をなくす第一歩にしたい。加えて民間のアイデアで地域活性化に取り組む「民間プロジェクト公募制度」を来年度中に創設する。

国の重要港湾である田子の浦港の整備には、大手メーカーも興味を示しており、周辺企業を集めた協議会も立ち上げる予定

だ。規制緩和を進めながら民間の力を活用していきたい。

——昨年は富士山が世界文化遺産に登録された。

その利点は十分に生かしているかねばならない。静岡県内は至る場所から富士山を望むことができるが、雄大な高さを実感できるのは麓の富士市だけだと考えている。「富士市ここにあり」ということをアピールするためにも、色々なものと結び付ける。例えば、「新富士駅」の「富士山駅」への改称、「新富士インターチェンジ (IC)」の「富士山IC」への改称などを交通事業者に働き掛けていきたい。

——赤字経営が続く私鉄の岳南電車では12年度から公的支援をしている。

今は年間6500万円の補助金を出しているが、3月末に15年度以降の補助金継続について結論を出さなければならない。率直に言って、今後も同じ額で続けるのはいかなものかと思う。ただ、補助の打ち切りは会社の存亡に影響を与え、1日約2000人いる利用者の交通手段を奪うことになりかねない。代

替案の検討が不可欠だ。乗降客は少しずつ伸びているという事実もあるので、もう一度岳南電車の持つ社会的便益を見直し補助を減額できるのであれば、継続も視野に入れたい。

——教育も重点施策だ。

昨年の全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）で、小学国語Aの正答率が静岡県は全国最下位だった。これは看過できる問題ではない。まずは教育委員会のスポーツ・文化部門を市長部局に移管することで、教育委員が一層教育に専念した議論ができる環境を作りたい。

現場では「放課後学習支援ボランティア事業」というものを始める。教師のOBや学生にボランティアで教師を務めてもらい、放課後に希望者を対象に勉強を教えてもらう事業だ。当然結果も求めていく。市の全ての学校が全科目で全国平均を上回るようにし、富士市の平均点も公表できるようにしたい。

（静岡支局 湯前 宗太郎）